

私の視点



米スタンフォード大学名誉教授
SVJP共同議長

Daniel Okimoto
ダニエル・オキモト

日本が着実かつ持続可能な経済成長を実現するには、資本、労働力、テクノロジの3要素を最適化して投入する必要がある。

日本のインフラは、世界で最も幅広く普及し先進的なレベルであるだけに、資本の投入余地は、保健医療と観光投資の2分野に限られる。

また日本では高齢化と人口減少が進み、高水準の労働参加率確保は容易ではない。女性や高齢者を労働力に加えると共に、技術のある外国人労働者を呼び込むべきだが、移民受け入れて日本の法規制の壁は高い。

だからこそ、テクノロジという要素は、日本にとって決定的に重要な意味を持つ。技術革新のペースは加速し、その範囲は容赦なく拡大している。世界経済のあらゆる分野は、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット、あらゆるモノがネットにつながるIoTなどデジタル技術の変革の波にさらされている。

日本の輸送技術、消費財、金融、保健医療、小売業での強みは、最先端技術なしにはその競争力がかけり、いずれは失われる恐れがある。

日本は岐路に立っている。日本が葛飾北斎の浮世絵に描かれるようなテクノロジの荒波に乗れるか、波間に消える泡となるか、だ。

世界市場での競争のため、日本企業は自らを変革すべきだ。英語を共通言語とし、技術革新の中で企業文化を育て、自社開発主義を捨てて世

米発の技術革命取り込み

日本企業の岐路

界に最先端技術を求める。リスクをとり、決断を早め、多くの外国人技術者を雇用する必要がある。

デジタル革命の波に乗るため、日本企業は特に、技術革新の先頭を走るシリコンバレー（SV）の隆盛を取り込む必要がある。日本はSVとの関わりが極めて限定的だ。中国や韓国企業はSVから幅広く果実を得る仕組みを築いている。

日本企業とSVをつなげるため、我々日系米国人は、シリコンバレー・ジャパン・プラットフォーム（SVJP）という非営利団体を結成した。大企業から中小企業に至るまで、日本企業と、SVの主流の人脈と技術をつなげることを支援する組織だ。SVで成功しているベンチャー企業創業者や、アップル、ゲートウェイといった有名企業の幹部になっっている日系米国人が参加している。

我々は個人の利得を得ようとは思っていない。親の世代の日系1世の努力をたたえ、その思いを胸に、両国の絆をさらに強めるのが狙いだ。

SVJPの目標はシンプルだ。低迷する日本経済の再生を手助けしたい。シリコンバレーと日本の懸け橋となつて、米国と日本の関係をさらに強めたい。米日間に長く残る橋をかけることが、SVJPに参加する我々日系米国人の願いだ。

◆ 投稿は手紙か siten@asahi.com
へ。電子メディアにも掲載します。